

vol.  
612

SOUL



公益社団法人郡山青年会議所 2024年度スローガン

Do one's best!

～心を尽くして行動しよう!

私たちの想いが新世紀 郡山の扉を開く～



新春のご挨拶

二〇二四年度 第六十四代理事長

織田 陵平

明けましておめでとうございます。

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、新年の幕開けを健やかに迎えることと心よりお慶び申し上げます。

平素は、私ども公益社団法人郡山青年会議所に対しまして、格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

昨年は、5月に新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に分類され、あらゆる制限が取り払われ、様々な会議や事業を实地開催することができました。事業としては、脱炭素社会へ向け地域一体となって脱炭素社会を目指していくという意識を醸成し、自発的にカーボンニュートラルに取り組む機運を高めることを目的とした「カーボンニュートラルエキスポinこおりやま」や、子どもたちがプロのスポーツ選手や地域スポーツ団体と交流することで身体を動かすことに関する意欲を醸成し、仲間たちと協力し様々な課題に挑戦し、積極性や協調性を学ぶことを目的とした「わくわくチャレンジキャンプ」などの事業を行いました。各事業に対し皆様よりご支援・ご協力を賜りましたことに、現役会員を代表し心より御礼申し上げます。

本年度は、「Do one's best! ～心を尽くして行動しよう! 私たちの想いが新世紀 郡山の扉を開く～」をスローガンに掲げ、会員一人ひとりが心を尽くしてまちづくりやひとづくりに邁進し、新世紀 郡山へ貢献するための運動を展開してまいります。コロナ禍を経た新しい時代の変化に柔軟に対応し、時代に即した価値観の中で互いに尊重し合い、強い信念を持ち運動を展開し、心を尽くして行動してまいります。また、郡山市市制施行100周年を迎えるにあたり、より多くの市民の皆様をはじめ様々なパートナーの皆様とさらなる交流を図り、「明るい豊かな社会」の実現を目指してまいります。さらに、本年度は公益社団法人日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会会長に、本青年会議所より、柳沼 勝恵 君が輩出されます。現役会員一同、柳沼会長体制をしっかりと支え、ともに良い運動を起こせるよう努めてまいります。本年度も、どうか皆様方のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、本年が皆様方にとりまして希望溢れる一年となりますことを心よりご祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

スローガン

Do one's best!

～心を尽くして行動しよう!

私たちの想いが新世紀 郡山の扉を開く～

【はつめい】

公益社団法人郡山青年会議所  
二〇二四年度 理事長所信  
第六十四代理事長 織田 陵平

新型コロナウイルス感染症も「5類感染症」に分類され、徐々にまちに賑わいが戻り、大きく変化した社会生活もコロナ禍以前に戻りつつありますが、現在は急速に変化する先行きの見えない時代、VUCA(ブーカ)の時代とも言われています。不透明な時代に加え、2022年に勃発したロシアによるウクライナ侵攻の長期化によるエネルギー価格や原材料価格の高騰、日本各地で頻繁に起こる激甚災害による被害などが、私たちの生活に大きな影響を及ぼしております。このような時代のなかで、私たち郡山青年会議所には何ができるのでしょうか。

郡山青年会議所は、1961年に全国で197番目のLOMとして誕生しました。以来63年に亘り「明るい豊かな社会」の実現を目指し、常に時代の先駆者としてまちづくりやひとづくりを通して社会にインパクトのある運動を展開し、多くの困難を乗り越え郡山の発展に寄与してきました。先人の想いや歴史が現在を生きる私たちに受け継がれ、絶えることなく運動が継続し大きな力となっております。

2024年に郡山市は市制施行100周年を迎えます。また、「うねめまつり 踊り流し」は60周年、日本初の野外ロックフェスティバルとも言われている「ワンステップフェスティバル」から50年、更に奈良青年会議所との姉妹JC締結から50周年と、様々な節目の年でもあります。新しい100年を迎えるにあたり郡山青年会議所がより地域に必要な組織となるためには、時代に即した多種多様な価値観を受け入れ、広い視野を持ち多くの課題に取り組んでいく必要があります。青年会議所は単年度制であり、計画的に運動を展開し、まちのため、ひとのために英知と勇気と情熱をもって行動していかなければなりません。そのためには、青年会議所の基本理念である「修練」「奉仕」「友情」からなる三信条や「明



るい豊かな社会」の実現という共通の理想を今一度深く理解し、理念に基づく明確なビジョンのもと時代に即した運動を展開していくことが、新世紀 郡山へ貢献する一歩になると考えます。

心を尽くして行動すること、情熱をもってまちづくりやひとづくりに関わることこそが、郡山の未来を牽引し、「明るい豊かな社会」を実現していく力になると確信しております。

【理念共感型の組織へ】

なぜ青年会議所へ入会しましたか。この問いへの答えは人それぞれで、入会のきっかけはどんなものでも構わないと思います。しかし、青年会議所には共通の理念やビジョンがあります。何のために、誰のために存在し、運動を行っているのか。何を大切にし、何を実現しているのか。会員一人ひとりがそれらを深く理解したうえで言語化し発信することが、目的を軸に据えた理念共感型の組織を形成し、会員拡大へつながっていくと考えます。多くの共感者を生み出しより地域に必要な組織となるためにも、会員拡大は大きな課題であり、中長期的な計画のもと継続的に取り組む必要があります。人は共感や共鳴を得ると動き出します。「地域の課題を解決し、社会を変革するには、どうしてもあなたたちの力が必要です。」そう伝えられる組織こそが私たちが望む組織ではないでしょうか。青年会議所の先輩方は、長い歴史のなかでまちの発展に寄与して来られました。これまでに築かれた信頼と実績が、明るい豊かな社会を実現するための礎となっておりま

影響をもたらすと考えます。

【心を込めた情報発信】

SNSやYouTubeなどの発達により、誰もが自由に発信を行える世の中となりました。情報過多の時代において真に役立つ情報を自身で取捨選択しなければならぬ状況のなかで、郡山青年会議所の情報発信を効果的に行うためにはどのような方法があるのでしょうか。これまでFacebook・X(旧Twitter)・Instagram・YouTubeなど様々なツールを活用し情報発信を行ってきました。しかし、情報発信はあくまでも手段であり、情報発信の真の目的は、連携するパートナーと継続的なコミュニケーションを行う信頼関係を構築することにあります。決して一方的に発信するのではなく、市民をはじめ様々なパートナーと心を通わせ交流を図り、郡山青年会議所の魅力を伝え共感の輪を拡げることがブランディングとなり、効果的な発信につながります。また、郡山青年会議所の運動・活動の中身をより可視化し、会員一人ひとりにスポットを当てながら地域に発信していくことで、青年会議所の存在が身近になると考えます。理念やビジョン、日頃の運動や活動を効果的に発信することで、私たちの運動に共感するまだ見ぬ同志を発掘できる可能性があるのです。

【地域の宝でまちに活力を】

郡山市は2008年に「音楽都市宣言」を行い、今日まで音楽と言う地域の宝を磨き上げてきました。郡山市が音楽都市宣言を行った背景には、様々な困難を市民が音楽の力を借り乗り越えてきた歴史があります。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響や度重なる地震による施設の損壊により、市民が音楽を身近に感じる機会が減少しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症も「5類感染症」に分類され、次第に音楽の灯が復活しています。「音楽都市郡山」は現在「楽都郡山」となり、2008年に制定された「郡山市音楽都市宣言」から15年以上が経過しています。音楽は郡山市が全面に打ち出しているブランドとなりませんが、音楽がまちにあふれ、人の輪が広

がり心をつなぐ「楽都郡山」は浸透しているのか、今一度考える時期を迎えているのではないのでしょうか。様々な文化は都市生活の水準を示す指標でもあり、その中でも音楽をブランドにしている郡山市においては、都市における音楽の役割を全体的に探究していくことが包括的な利益をもたらす、市民が誇りを持つ文化的な都市形成へつながると考えます。郡山市の特色ある文化に根差した魅力を発信し、市民が積極的に郡山市のブランドやイメージを対外に広めていくことで、人々の交流を促進し人と人が織りなすハーモニーを奏でる魅力ある「楽都郡山」の創出へとつながります。

【未来ある子どもたちのために】

まちの発展を考える際には、そのまに住まう子どもたちの未来も同時に考えていかなければなりません。近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しております。核家族化の進行や地域コミュニティの希薄化、SNSの進化や学びの在り方などが新たな局面を迎えているなかで、子どもたちが社会の一員として主体的に他者と尊重し合い、困難を乗り越え諦めず行動していくために、地域の大人たちができることは何でしょうか。私たちは地域に根差した団体として、地域の特長を活かした体験や交流を通じた地域教育や、様々なコミュニケーションにより心を通わせることで生きる力を育て、まちの歴史や特性をより深く理解し愛郷心の醸成につながる機会を提供することで、将来の郡山を担う人財へと成長する一環になると考えます。子どもたちの健やかな成長と社会の一員としての自立が地域へ活力を生み出し、まちのさらなる発展へとつながっていくのです。

【結びに】

青年会議所は、会員一人ひとりが自分の個性を発揮し、まちづくりやひとづくりの魅力や楽しさを共感できる場です。様々な機会があり、その機会を活かすために当事者意識を持って行動することで経験値を上げ、その経験が大きな力となります。自分の経験値以上の発想力や創造力は生み出されないと言われます。成

功や失敗の経験から取捨選択を行いより良い運動を起こすことが、「明るい豊かな社会」の実現に近づくと考えます。コロナ禍を経た新しい時代の変化に柔軟に対応し、それぞれの価値観の中で互いに尊重し合い、大きな一つの目的に向かつて行動し、誰かの挑戦を全ての人が応援できる、助け合える組織であれば、組織は自然と成長すると思っております。新しい時代への過渡期のなかで、これまでの型に捉われない型破りな発想も必要になってくるでしょう。守るべきものは守り、時代の先を見据えて郡山の未来を切り拓いてきた先人たちのように、私たちが強い信念を持ち運動を展開し、心を尽くして行動してまいります！新世紀 郡山の扉を開くために。

郡山青年会議所OB会

「令和六年度定時総会」

一月四日、ホテルハマツにて、郡山青年会議所OB会「令和六年度定時総会」が開催された。定時総会では、令和五年度事業および決算報告の件、令和六年度事業計画および事業予算ならびに役員選任の件が全会一致で可決承認された。(公社)郡山青年会議所理事長織田隆平君による挨拶の後、(公社)郡山青年会議所の役員ならびに出向者、令和六年度新入会員の紹介が行われ、終始和やかに会が進行した。

- 第一号議案 令和五年度事業報告承認に関する件
- 第二号議案 令和五年度決算報告承認に関する件
- 監査報告
- 第三号議案 令和六年度事業計画承認に関する件
- 第四号議案 令和六年度収支予算承認に関する件
- 第五号議案 令和六年度役員選任に関する件





福島県知事

内堀雅雄様

明るい未来へ、

「つやひ、つやひ、実現するふくしま」

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことから、県内においても様々な催しが再開されるなど、コロナ禍前の日常を徐々に取り戻しつつあることを実感できた一年でありました。

また、震災と原発事故から間もなく13年が経過する中、避難指示区域が縮小したほか、福島国際研究教育機構（FIRE）が始動するなど、明るい光が一層の強まりを見せてまいりました。

さらに、震災後、55の国・地域で行われた県産農林水産物の輸入規制は7つの国・地域にまで減少し、県内への移住者数や新規就農者数が過去最多を更新するなど、これまでの挑戦が目に見える形となって現れております。

一方で、未曾有の複合災害からの復興・再生、急激に進む人口減少や度重なる自然災害への対応など、本県は困難な課題が山積しております。特に、ALPS処理水の問題は、今後数十年にわたる長い取組が必要となります。

県といたしましては、引き続き、これまでの挑戦を「シンカ（進化・深化・新化）」させながら、様々な課題に全庁一丸となって取り組んでまいります。

まず、震災と原発事故からの復興・再生につきましては、復興の状況に応じた被災者の生活再建や事業・生業の再生、帰還に向けた環境の整備などに取り組むとともに、廃炉と汚染水・処理水対策や、風評の払拭と風化の防止などに着実に取り組んでまいります。

次に、人口減少対策につきましては、妊娠・出産・子育ての希望を叶える環境づくりとともに、若者等の県内定着や移住・定住の促進などに取り組んでまいります。

さらに、台風第13号に伴う大雨災害からの復旧につきましては、被災された方々の一日も早い生活再建や事業・生業の再生、公共施設の早期復旧に向けた取組を進めてまいります。

加えて、厳しい状況にある本県の健康指標については、オール福島体制で健康づくりに取り組むなど、県民の皆様の健康増進を積極的に推進してまいります。

福島県が抱える課題は複雑であり、解決には長い時間が必要となります。だからこそ、総合計画に掲げた目標を「ひとつ、ひとつ、実現」し、県民の皆様お一人お一人が将来に夢や希望を持ち、豊かさや幸せを実感することができる福島の未来を創り上げるため、全力で挑戦を続けてまいりますので、今後とも、一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。新年の御挨拶といたします。



郡山市長

品川萬里様

『ウェルビーイング (well-being)』

なまち郡山』の実現を目指して

新年おめでとうございます。

郡山青年会議所の皆様には、清々しい令和6年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は、「Challenge a new era, and change the future!」新しい時代に挑戦しよう、私たちが夢描く最高の未来へ」のスローガンのもと、会員皆様方の創意工夫により各種事業を展開され、明るく豊かな地域社会づくりに積極的に取り組んでいただきましたことに、心から敬意と感謝の意を表します。

さて、いよいよ本年は市制施行100周年の記念すべき年です。先人たちが築かれた歴史や功績を振り返るとともに、次の100年の礎となる「郡山ルネサンス」のスタートの年にいたしましょう。

本市におきましても、2030年のSDGs目標年限、2050年のCO2排出量実質ゼロなど、将来不可避の課題からバックキャストで捉え、「ベビーファースト」の理念のもと、DXを加速させるとともに、市民・団体・事業者などの皆様との「公民協奏」によるGXにも積極的に取り組んでまいります。

先人から受け継いだ「開物成務」の精神で、そして今後100年間の市民の皆様からも評価いただけるよう、誰一人取り残されず、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられる、「ウェルビーイング (well-being) なまち郡山」の実現を目指してまいりますので、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

「ひらけ 未来へこおりやま」

織田陵平理事長をはじめ会員皆様方の御活躍を心からお祈り申し上げますとともに、本年も市政への御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。新年の御挨拶といたします。



郡山商工会議所 会頭

滝田康雄様

魅力ある郡山に向けて

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

郡山青年会議所の皆様には、「奉仕」「修練」「友情」の三信条のもと、諸先輩方が築き上げた伝統を継承し、進取の精神に富む若者の視点で、地域の未来に向けた多彩な事業を展開され地域の活性化にご尽力されておりますこと、心から御礼申し上げます。

さて昨年は、資源資材の高騰や円安問題、人手不足など地域経済にとりまして先行き不透明な年でもございました。このような中当所では、企業の生産性向上や伴走型支援、地域の皆様の力を結集した地域活性化事業を展開してまいりました。とりわけ約5万8千人にご来場いただき開催できたビール祭には、多大なるご支援ご協力を賜り重ねて御礼を申し上げます。

本年も、地域企業の持続的な成長に向けた支援と、地域の魅力を活用した各種イベントを実施し、地域経済の活性化につなげてまいりたいと存じます。

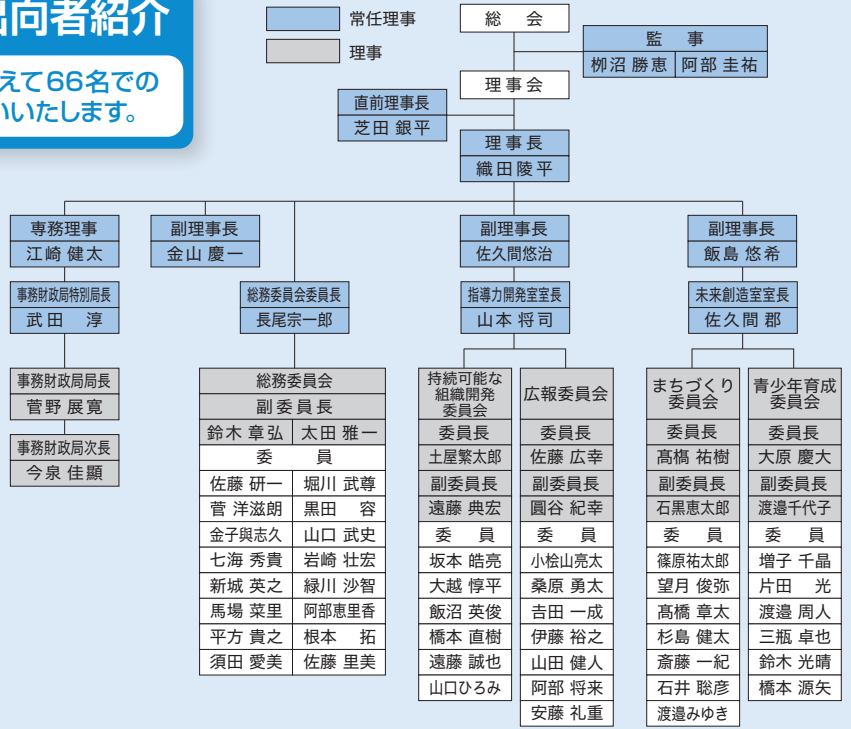
郡山青年会議所におかれましては、織田理事長が掲げられたスローガン「心を尽くして行動しよう！ 私たちの想いが新世紀 郡山の扉を開く」のもと、若い感性と行動力を発揮して、夢と希望があふれる若者が活躍する地域づくりの実現に向けて、邁進されますようご期待申し上げます。

結びに、貴青年会議所の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍とご健勝を心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

# 2024 組織図および出向者紹介

● 2024年度、12名の新入会員を加えて66名でのスタートとなります。よろしくお願ひいたします。

出向者	
日本青年会議所	
スポーツ推進委員会	委員 佐久間悠治
社会構想会議	委員 渡邊みゆき
東北地区協議会	
福島ブロック担当副会長	柳沼 勝恵
会務担当副会長	芝田 銀平
事務局	次長 堀川 武尊
組織連携推進委員会	副委員長 佐久間悠治
組織連携推進委員会	小幹事 安藤 礼重
福島ブロック協議会	
会長	柳沼 勝恵
運営専務	金山 慶一
事務局	局長 武田 淳
財政局	局長 大越 惇平
事務局	次長 三瓶 卓也
事務局	次長 杉島 健太
財政局	次長 橋本 直樹
総務委員会	副委員長 山田 健人
アカデミー委員会	委員 黒田 容
アカデミー委員会	委員 橋本 源矢



## 新入会員紹介



あべ えりか  
阿部 恵里香  
株式会社小野屋  
取締役



いわさき たけひろ  
岩崎 壮宏  
株式会社山一中央青果卸売市場  
専務取締役



かねこ よしひさ  
金子 與志久  
株式会社福島日産自動車  
専務取締役



ののもと たく  
根本 拓  
衆議院議員  
根本匠事務所



さとう さとみ  
佐藤 里美  
株式会社トリニティ  
代表取締役



やまぐち たけし  
山口 武史  
株式会社 RONDO  
取締役



ななみ ひでき  
七海 秀貴  
株式会社アルバリス  
代表理事



しんじょう ひでゆき  
新城 英之  
株式会社新城商店  
監査



すだ かなみ  
須田 愛美  
株式会社ピオ・プランナーズ



ばば なり  
馬場 菜里  
衆議院議員  
馬場ゆうき事務所



ひらかた たかゆき  
平方 貴之  
株式会社南プロテック  
専務取締役



みどりかわ さち  
緑川 沙智  
株式会社福島民友新聞社郡山総支社  
記者

## アンケートのお願い



アンケート  
QRコード

※ご記入いただいた個人情報誌面を充実させることや事業へ役立てること以外の目的で使用いたしません。

＜宛先＞  
公益社団法人郡山青年会議所  
広報委員会宛  
〒963-8004 福島県郡山市  
中町5-17 中町スペース3F  
FAX: 024-93322857

本誌や当団体へのご意見や感想をお寄せください。

●性別 ●年齢 ●関係者か否か  
●興味・共感を持った記事または事業  
●本誌や当団体へのご意見・ご感想  
●当団体にとってほしい事業

お送りください。

Instagram QRコード  
フェイスブック QRコード  
X QRコード

SNSによる情報発信も  
行っています。

発行所 事務局 公益社団法人郡山青年会議所 福島県郡山市中町5-17 中町スペース3F 電話024-9332289  
発行責任者/理事長 織田 陵平  
編集責任者/広報委員会委員長 佐藤 広幸 ※無断転載禁止